



発行所
カトリック長崎大司教区
本部事務局
〒852-8113
長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095(842)4450
FAX 095(842)4460

司教団メッセージ

「すべての人の人権を大切に」

日本の教会の兄弟姉妹の皆さんへ

はじめに

1948年12月10日、第3回国際連合総会は二度にわたる世界大戦においておびただしい尊い人命が奪われたことを反省し、世界人権宣言(注1)を採択しました。この宣言により一人ひとりの人と全ての民族の権利を等しく尊重することこそ、平和の基礎であることが確認されたのです。しかし宣言が採択されてから60年を経た今もなお、国内外で人権が侵害されています。この現状に目を向け、日本カトリック司教団は、世界人権宣言の普遍的価値を再確認するとともに、あらためて人権の尊重

を基盤とした社会の構築をめざすよう呼びかけます。

すべての人を大切に

世界人権宣言第1条は「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である」(注2)と述べています。これは、世界のすべての人が誰一人として例外なく、かけがえない人間であるという宣言です。わたしたちは聖書の教え(注3)によって、すべての人は神の似姿として造られたものであり、「人間の尊厳は人間社会がつくりだしたのではなく、神によって与えられたものでなく、神に基づき権利は誰も侵してはならな

い普遍的な権利であると信じているのです」(注4)。

人権は新たな危機的局面を迎えています

しかし、世界人権宣言から60年、人権の擁護と促進のために多くの人が努力したにもかかわらず、人権が侵害される事件は後を絶たないばかりか、その背景となる問題は深刻化し、わたしたち人類は世界的規模でこれまでにない新たな事態に直面しています。

「もともとすべての人に公平に配分されるはずの生活手段とそこから得られるさまざまな利益の不平等な配分」(注5)により、格差が広がっています(注6)。現代世界に蔓延している市場原理主義的価値観は、共通善の促進より利益追求を優先する結果、この格差をいっそう広げ、人権侵害を構造的なものにしています。この市場原理主義は環境問題にも深刻な影響を及ぼしています。気候変動に伴う早ばつや水害(注7)ばかりでなく、燃料や食糧価格の急騰(注8)、水資源の民営化(注9)などがこれまでになく広い範囲の人びと、中でも貧しい人たちにいつそうの打撃を与えています。

このまま何の対策もたてることなくこの事態を見過ごすならば、生存の危機に陥る貧困層が拡大す

るのは目に見えています。もし、個人、企業、国家が利益追求だけに走り続けるならば、人間の尊厳は踏みこたれられ、一層暴力的で歪められた世界に陥っていきます。

そこでは「人間の尊厳が蹂躪された結果、悲惨と絶望のうちにある犠牲者は容易に暴力に訴える誘惑に駆られ、犠牲者が平和の破壊者となる」(注10)こともあるのです。一刻も早くこれらの状況を変えなくてはなりません。もはや猶予はないのです。わたしたちは、「個人の利益追求によって支配される世界ではなく、全人類の共通善に対する心づかいによって支配される別の世界」(注11)を求めていきたいのです。そのためには世界がすでに共有しているはずの大切な基準、すなわち世界人権宣言を今一度確認し、あらゆる分野で具体的に実現していくことが必要です。

人権の擁護と促進への取り組み

一人の人に対する人権侵害は人類全体に対する侵害です(注12)。前教皇ヨハネ・パウロ二世はこう言われました。「自分たち自身が全力を傾けないかぎり、いかなる人権も決して守ることができない」ということだけは強調しておきたいと思えます。何らかの基本的人権が侵害されたとき、何の対応もせ

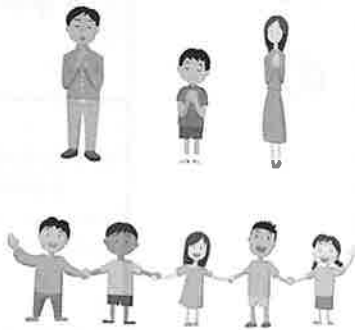
ずに受け流すなら、他のすべての人権が危機に陥ります。ですから、人権問題については世界的な取り組みを行い、人権擁護のために真剣に責任をもってかかわらなくてはなりません」(注13)。

さらに人権擁護の責任は個人のみならず、国家にも国際社会にもあります。教皇ベネディクト十六世は国家の責任に言及し言われまです。「すべての国家は、自国民を、人権の深刻かつ度重なる侵害から守ると同時に、自然を原因とするものであれ、人間の行動が引き起こすものであれ、人道的な危機の結果から守るための本質的な務めを有します」(注14)。

今日の危機的局面を打開するためには、そのすべての要因を一つ一つ根気強く取り除いていく必要があります。そのためにわたしたちは、貧しく弱い立場に追いやり、大切な人間関係を断たれてしまっている人々、人間らしい生活が損なわれ、あるいは妨げられている人々の側に立って、この世界を見ていかなければなりません。この小さくされた人の視点が欠けているとすれば、たとえ悪意がないとしても、それは「ある程度の人権侵害はやむを得ない」とする側に立つことになってしまい、人権問題の解決にはつながりません。

皆さん、すべての人が主体的に生き、人間の尊厳にふさわしい生活をおくり、人との絆を回復できる社会を実現するために、あらゆる機会を通して祈り働きかけていきましよう。「人権の促進は、人類愛に導かれた務め」(注15)であり、「諸国間、社会集団間の格差をなくし、安全保障を強化するためのもっとも有効な戦略」(注16)なのです。そして「人間の尊厳と人権の問題を不可分のものとして尊重していくとき、個人と社会双方の善は間違いなく促進」(注17)されるでしょう。

2008年12月10日
世界人権宣言60周年にあたって
日本カトリック司教団



<注>

1. 正式名称は“Universal Declaration of Human Rights” = 「人権に関する世界宣言」
2. 「人権に関する世界宣言」第一条 参照
3. 創世記1・27「神はご自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された」。
創世記2・7「主なる神は土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった」。
4. 詩編8・5-6「人の子は何ものなのでしょう／あなたが顧みてくださるとは、神にわずかに劣るものとして人を造り…」
司教団戦後60年平和メッセージ「非暴力による平和への道 ～今こそ預言者としての役割を～」(2005年カトリック平和旬間) 参照
5. ヨハネ・パウロ二世・回勅「真の開発とは」 n. 9 (1987年12月30日) 参照
6. 国連経済社会理事会／世界社会情勢報告2005「不平等が生み出す苦境」参照 <http://www.unic.or.jp/new/pr05-074-J.htm>
7. 同 2007/2008年版「気候変動との戦い—分断された世界で試される人類の団結」参照
<http://www.undp.or.jp/hdr/pd/release/2007-2008.pdf>
8. 国際連合食糧農業機関／世界食糧情報早期警報システム 参照 (FAO Global Information and Early Warning System Homepage, Regional Food Price Update, <http://www.fao.org/giews/English/ewi/cerealprice/4.htm>)
9. 国際連合開発計画／人間開発報告書2006年版「水危機神話を越えて：水資源をめぐる権力闘争と貧困、グローバルな課題」参照
http://www.undp.or.jp/publications/pdf/undp_hdr2006.pdf 水道サービスの民営化が世界規模でかなりの速度で進んでおり、人間開発報告書2006年版が指摘しているように、「貧困層の圧倒的多数がすでに民間市場で水を購入している…。このような市場では、不安定な品質の水が高額で取り引きされている」
10. ベネディクト十六世「国連での演説」(2008年4月18日) 参照
11. ヨハネ・パウロ二世・回勅「真の開発とは」 n. 10 (1987年12月30日) 参照
12. 同・「世界平和の日メッセージ」(2000年)「一件の人権侵害は全人類の良心に対する侵害であり、人類全体に対する侵害に他ならない」参照
13. 同・(1999年)
14. ベネディクト十六世「国連での演説」(2008年4月18日)
15. ヨハネ・パウロ二世「世界平和の日メッセージ」(1998年) 参照
16. ベネディクト十六世「国連での演説」(2008年4月18日)
17. ヨハネ・パウロ二世「世界平和の日メッセージ」(1999年) 参照

Q&A



Q・人を大切にすることは分かっていますが、「人権を大切に」とわざわざ「人権」という言葉を使うのはなぜですか？そもそも、「尊厳」とか「人権」とか、よく意味がわかりません。

A・人を大切にすることが分かっているならば、「尊厳」や「人権」の意味が分かっているなくても問題ありません。人を大切にすることを実践すればいいのです。しかし、現実には人が大切にされていないことが多いです。多くあります。そんなときには、「この人も人間として大切にされなければならぬんですよ」と理解してもらわなければなりません。「人間は、人間であるという理由だけで、尊厳存在なんですよ」、これが「尊厳」の意味です。さらに、大切にするだけではなくて、その人を具体的に助けなければならぬ場合もあります。たとえば、具合が悪くなつてしゃがみこみ、そのまま動かなくなつた人がいるとします。もし、その人が自分のよく知っている人ならば、駆け寄ってすぐに介抱するでしょう。しかし、まったく知らない人であつても、あなたはその人を介抱しなければなりません。もし、あなたが知らんぷりをした結果、その人が命を失うようなことがあれば、あなたは知らんぷりをした責任を問われることになります。な

ぜかというところ、その人には生きる権利（生存権）があるからです。その人の権利は、みんな守らなければなりません。「権利」という言葉には、単なる親切心や善意を超えて、あなたにはその人のためにしなければいけないことがある、という意味が込められています。ですから、あえて「人権」という言葉を使うのです。

Q・利益を追求することは悪いことなのですか？

A・人は利益を得なければ生きていけません。ですから、利益を得ることはよいことです。利益が多ければ生活も安定します。生活の安定は、より人間らしく生きるために必要ですから、その意味で利益を追求することもよいことです。ここで司教さま方が指摘している「利益の追求」は、自分だけよければいいという発想で行われる利益の追求です。このような場合、人を苦しめたり、困らせたり、ときには命を奪つたりすることが稀ではありません。つまり、利益の追求が他の人の人権を踏みにじることがあるのです。そのような利益の追求がゆるされるはずがありません。

Q・自分のことで精いっぱい、人のことまでかまっていられません。それでも、何かしなければならぬのでしょうか？

A・ある時、マザー・テレサが貧しい家に少しのお米を持って訪問しました。お母さんは病気で寝ています。子どもも一緒にいておなかを空かしていたので、その

お米をお母さんにあげました。お母さんは「ありがとう」と言つてそのお米をいただく、それを半分に分けて子どもに渡し、「これを隣のおうちにあげなさい」と言いました。隣にも食べ物のない親子がいたのです。

あなたは本当に人にかまっていられないほど、自分のことで精いっぱいですか？もしそうなら、何もできないのは当然です。でも、ほんのわずかでもできることがあるなら、あなたはそれを実践しなければなりません。人権を大切にすることは、そういうことです。

Q・何かしたくても、一人ではできません。長崎の教会で、具体的な取り組みがあるのでしょうか？

A・長崎の教会は、どちらかというと教会の自治に力を注ぐ教会でした。しかし、キリストに倣い社会と共に歩もうと、福祉活動や社会問題に取り組んでいるところもあります。「声の奉仕会」は三十年前から視覚障害者のために本の朗読を録音しています。佐世保の「シナピス会」や長崎の「一粒の麦の会」は、フィリピンの支援を、愛宕教会は「ハイチ里親運動」を行っています。障害児者と家族を支える「モナの会」や「聴覚障害者の会」もあります。宗派を問わず木曜に夜回りをしている「ホームレスを支援する会」。また、自殺防止活動「長崎いのちの電話」、薬物依存者支援「ダルク」もわずかながら教会の関わりがあります。

新しい要理

「共に歩む旅」
(26)

第二十四課

「叙階の秘跡」

仕えるために



【進行係】（参加者を歓迎して、十字架の印をしながら集いを始める）

「二・三人の方が祈りで神さまをこの席に招いてくださいませんか」

A・私たちの生活

イエスは多くの人々の中から特別に12名を自分の使徒として選び、教会全体のための奉仕職を任せられました。この特別な奉仕職は後継者の司教たちに継承され、司教たちは司教を助ける人々を選び、司祭として奉仕するようにします。



【進行係】上の写真を見ましょう。

【進行係】（参加者たちに質問する）

① 写真を見ながら感じたことを自由に話し合ってみましょう。

② 司祭たちの仕事について話し合ってみましょう。

B・神のことば

イエスは12名の使徒を選んで常に彼らと一緒に過ごし、彼らを教育し、彼らと最後の晩餐を共にされました。復活後キリストは、最初に彼らを探して自分の羊の群れを任せ、この世のすべての人に神を伝えるように彼らを派遣されました。

【進行係】

「どなたかマタイ9・35―38（牧者のない羊）を読んでくださいませんか」

・ ・ ・ 聖書を読む ・ ・ ・

「他の方がもう一度読んで下さいませんか」

・ ・ ・ 聖書を読む ・ ・ ・

【進行係】「次の聖書の言葉を一人ずつ順番に、祈るように読んで下さいませんか」
（同じ言葉を3回繰り返して読む間、他の人は沈黙をする）

「町や村を残らず回って」
（3回）

「御国の福音を宣べ伝え」
（3回）

「病氣や患いをいやされた」
（3回）

「飼い主のいない羊」
（3回）

「収穫のために働き手を」
（3回）

【進行係】（参加者たちに質問する）

上の福音書の言葉に照らしてみて、牧者の仕事とは何だと思えますか。

司祭たちが教会とこの世で祭司職を遂行することは、キリストの名前でキリストの代理として奉仕することです。

【進行係】

イエスがご自分の弟子たちに



期待されたことは何なのか、次の聖書の本文から探してみてください。（一組対話を交わす。）

① ヨハネ 21・15-17（私の羊を世話しなさい）

② マルコ 10・35-45（仕える人が治める）

③ マタイ 28・19-20（私の弟子にしなさい）

④ 1テモテ 4・12-16（信者たちの模範となりなさい。勧めと教えに専念しなさい）

参考聖書

- *使徒言行録 6・1-6 ..
- 7人の補助者の選択
- *使徒言行録 20・28 ..
- 監督者に任命
- *ヘブライ 5・1-10 ..
- 偉大な大祭司イエス
- *テトス 1・5-9 ..
- クレタでのテトスの仕事
- *1テモテ 4・13-16 ..
- キリストの立派な奉仕者

C・さらに一歩進んで旅をつづけよう

教会によって選ばられ、聖霊によって按手を受けた司教とその協力者である司祭と助祭は、イエス・キリストの弟子としてこの世と教会のために奉仕する人々です。彼らは「仕えられるためではなく仕えるために来た」というキリストに従って福音を伝え、秘跡と典礼を執行し、すべての人を神様に導きます。

【進行係】（参加者たちに質問する）

① 皆さんが望んでいる司祭像について話し合ってみましょう。

② 私たちは教会の中でどのようなにして司祭を助けること（共通祭司職）ができますか。

【進行係】自由なお祈りを捧げながら集いを終わります。

【進行係の心得】

叙階の秘跡は仕えることの偉大さとこれをなすとげるための力を授けます。使徒の選びに始まる司教・司祭・助祭の役務的祭司職は信徒のもつ共通祭司職と一体であることを学びたい。

【覚えましょう】

81・叙階の秘跡とは何ですか。
*キリストの司祭職にあずからせ、その職務を遂行するために必要な権能と恩恵を授ける秘跡です。

82・召命とは何ですか。
*人間を召く神の声です。
① 一般的に司祭職や修道者として神に仕えるため、神に召されることをいいます。

② しかし、信徒にも固有の召命があり、それは神に従って現世的なことがらを照らし、秩序づけながら、神の国を追求

することです。信徒は、このようにして、洗礼を受けたすべての人に向けられている、聖性と使徒職への召命を実現します。

83・役務的祭司職と共通祭司職はどう違いますか。

*叙階の秘跡を受けて教会に特別な奉仕をすることを「役務的祭司職」といい、信者たちの参与する祭司的職務を「共通祭司職」といいます。

イエス・キリストがみずからを神に奉獻した司祭のように、キリストに従う信仰者たちもイエスの祭司職に参与します。叙階を受けた聖職者は司教と司祭と助祭に区分され、キリストから付与された特別な権能で祭司職（役務的祭司職という）に参与します。司祭の職務は神のみ言葉を宣べ伝え（預言職・宣教活動）、神の民を世話し（王職・司牧活動）、典礼と秘跡（祭司職・典礼活動）を執り行います。一般信徒もキリストに従ってこの世の中でおのおの預言職、王職、祭司職（共通祭司職という）に参与します。





人権問題

(一般論的立場)

一般社団法人・

全国人権教育研究協議会

代表理事 石村榮一

今世界の人権教育あるいは人権啓発の中心的課題は、『共生』だといわれています。国連は、この地球上に生きるすべての人々が支えあって『共に生きる』ことが、世界の平和の実現につながると考えています。そこで、今日の講演のスタートは、このポスターにしました。

1.りんご



いろんなりんごがありますね。ところでこのりんご、地球上に何種類ぐらいたると思われませんか？りんごの数ではないですよ。どう

ですか？いくつでしょうね？答えは1万品種です。「おいしいりんごを食べたい」と言う私たちの願いが、旺盛な探究心を刺激し、次々と新しい品種を生みだしていったのです。その結果、約1万品種というりんごの誕生に結びついたといえます。赤りんご、黄りんご、緑りんご、大きいりんご、もあれば小さいりんごもある。酸っぱさが強いりんごもあれば甘みが強いりんごもある。その地方、その地域に根ざしたりんごをもとに、改良を加えていく。だからこそ私たちは、今、自分が食べたいりんごを選べるのではないかなと思います。

このごろは活躍している様子をあまり聞けなくて少し気がかりなのですが、私の大好きなテニスプレイヤーにシヤラポアさんがいます。彼女は日本が大好きです。日本で行われたテニスの試合で自分の実力、自分らしさを発揮し素晴らしい成績を上げることができた。そしてこの成績は日本の皆さんの応援が自分を後押ししてくれた結果なんだと話されています。この後、世界に大きく羽ばたいて活躍しています。だから日本大好きなんだそうですが、そのシヤラポアさんが日本に着いたらまずお願い

することが、りんご。しかもどれでもいいわけではなく、こだわりのりんご「さんぶじ」を食べて、『あゝ日本に帰ってきた！』と実感できるのだそうです。

2.赤色



次はこのポスターです。10個のハートマークの中はすべて赤色で塗りつぶされています。ところがこの赤、一つ一つが微妙に違った色です。お気づきでしたか？しかもちよつとした赤の違いにはきちんとそれぞれに違う名前があり、個性があります。朱色、紅色、あかね色、えんじ等です。それぞれに名前がつくというところは、色の違いを認め合うということです。違いが豊かでより質の高い表現になっていきます。私たち人間の世界でも同じことです。一人ひとりの人間には、それぞれに違った名前があります。名前にはその人の両親や家族の願いが込められています。名前を他の人から呼ばれるたびに、自分というかけがえのない存在を自分自身が確かめたり、周りの人がその人自身の存在を個人として認めたりしているのだと思います。

ところで多彩な色合いに応じた

個性的な名前付けは、浮世絵が庶民にもはやされた江戸時代にはおおむね完成していたそうです。浮世絵は、全体の構図を考える人、それを版木に彫る人、その版木を刷る人、この3者の共同作業によってあの素晴らしい世界をつくりあげています。その時に、「ちよつと違うな、その赤ではなく茜色で！」と言われたら、刷り師はきちんと色が出せます。ところが、「もう少し暗い赤で！」と言われても微妙なずれが出てきます。雨だつてそうです。表現力豊かな日本人は、雨を単なる雨とはせず季節や情景、その時の心情によってさまざまな呼び名をつけてきました。「梅雨」がそうです。「つゆ」が、「菜種つゆ・走りつゆ・送りつゆ・戻りつゆ・空つゆ」など多様な呼び名を持つているわけです。

このようにもともと私たち日本人は、違いを愛し違いを認める、違いを豊かさに、このような民族性を持つていたと思われまふ。ところがいつの間にか同調思考が強まり、「赤信号、みんな渡れば怖くない」が端的に示すように、金太郎飴みたいな思考や行動様式を身に着けてしまつていて、自己を自覚しておくことが大切だと思いま

3・あなたはあなただから素晴

5151

冬の自然界ではもっと不思議な世界が繰り広げられています。葉っぱを落として冬芽を準備している木の枝を観察してください。木の芽はみんな個性的な表情を見せてくれます。同じ顔はありません。そして、みんな同じ大切な命を持っている。人間も同じです。同じ顔はありません。それぞれが個性豊かな表情を持っています。

ところが、その個性を発揮して自分に与えられた命を全うする、その最も大切なことが今の日本や世界の中では軽くあしらわれているように思います。人それぞれが命の重さを持っているにもかかわらず、その命をまつとうできない。幾多のバトンタッチを受けて今、生かされている自分。多くの人や生き物の命の支えを受けて今、生かされている自分。これらのことに対して感謝とつながりを忘れたとき、命は途端に薄っぺらなものに変身してしまうように思います。世界で活躍している坂本龍一さんがこんなプレゼントをしてくださいました。「音楽は一つひとつの音でできている。世界は一人ひとりの個性でできている」まさに国連が言う『共生』のメッセージを、彼

はこんなに短い言葉で端的に表現しています。

長崎県も素晴らしいです。「あなたはあなた だから 素晴らしい」こんなキャッチコピーをつくりました。中学生・高校生に人権の話をする感想文の中に、「あなたはあなただから素晴らしい」この言葉に私は涙が出てきました。明日も学校に行く勇気をもらいました」こんな文章が必ず出てきます。多くの子どもたちも含めて今の日本社会が、周りの人に合わせれば！合わせきれない自分は間違っている！このような状況に追い込んでいるのかなと思います。本当はかけがえのない、他と取り換えることのできない自分の命、自分の個性を授かっているにもかかわらず、空気を読めよ！という言葉を生み出す風土が同調思考を強制しているのだと思います。自分が自分であることを押しつぶしているのだと思います。

だからこそ、『あなたはあなただから素晴らしい』の言葉を、もつともつとたくさんの県民の皆さんに届けていきたいと考えています。その時、このポスターも紹介したいのです。『ものさし』です。何十通りもの物差しが紹介されていますが、これらはすべて長さを測る

ものです。たった一つの価値観で自分の周りの人をはかろうとする間違いが起こる。私たちが多様な価値観、そしてその多様性があることに素晴らしさを感じ取れる感受性、豊かさが求められているのではないのでしょうか。

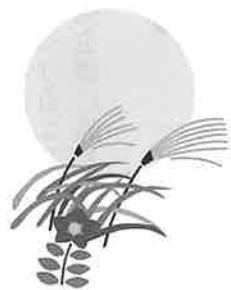
4・人権はぶつかり合うもの (対立する人権)



ところが現実の生活は、きれいな事は済まない。このポスターです。雨が降ったので傘をさしています。ところが：見てください。あまりにも大きすぎます。周りの人が迷惑をしています。とても『あなたはあなた だから素晴らしい』とは言いたくないです。行為に問題があれば、人物を否定せず過ちを改めてもらうことが大事です。

そんな時こんな問題提起をしてみましよう。鹿児島県がつくったメッセージです。

『あなたという人間はこの世にたった一人しか存在しません』そのあなたがたった一人の自分を大切にし、あなたらしく幸せに生きたいと願う、その願いをかなえること。それはとても大切なことです。でも忘れてはいけないのは：『ここからです。』この世に生きるすべての人が同じ思いを抱いているということ。自分の願いを叶えるために、誰かの邪魔をする。自分の願いだけに拘って、誰かに悲しい思いをさせる。それが本当にあなたらしい幸せな生き方だと言えるのでしょうか。この世にたった一人しかいないあなたと、この世にたった一人しかいない誰かが、お互いの大切なものを尊重し認め合う。そこからコミュニケーションが始まり繋がっていく。そのつながりの中でこそ、あなたの願いが叶えられるのではないのでしょうか。』



大司教談話室

16

信仰生活



Q 長崎教区の信仰体質についてどう思われますか。祈りはするが、社会とはかけ離れているとも言われます。聖書の中でもとくに福音書を読むようにしていますが、最近複雑な感じがしています。それは、イエス様が戒められていたフアリサイ派や律法学者の考え方と、長崎教区の多くの人々の考え方が、似ているのではないかと思われるからです。

A 祈りあるいは信仰と生活態度との矛盾あるいは乖離（かいり）の問題は、永遠普遍とも言える問題で、長崎の信者に限らず、全世界で今に至るまでいつの時代にも見られた状況です。ただ、長崎の信者には、「信仰を隠しながら守った」二百六十年間の潜伏時代が何らかの痕跡を残していると思います。

1・教えと生活態度との矛盾あるいは乖離

フアリサイ派の人や律法学者は、自他共に認める、誰よりも熱心に律法を大切にし、絶えず学んで守り行う人たちでした（フィリピ3・5・6参照）。ところが、福音書を読むと、どう

もちがいます。しかし、もしイエスの教えとわたしたちの生活態度が矛盾したり、かけ離れたりしているとすれば、実はわたしたちも彼らと同じなのです。教えは立派、しかし生活が違うわけですから。イエス様はこう言われました。「律法学者たちやフアリサイ派の人々は、モーセの座に着いている。だから、彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見做ってはならない。言うだけで、実行しないからである。」（マタイ23・2-3）彼らは、律法をひたすら文字通り忠実に守ろうとしていたのです。神の掟を守ることは、すなわち神を信じ愛することのはずですが、その間に人間の心がそれて行くようです。

2・教条主義と人間の尊厳

状況を考慮せず、人や物事に規則や掟を杓子定規に当てはめることを「教条主義」と言います。十戒で、安息日の労働は禁じられていました（出エジプト記20・10）。イエス様がその日に病人を治すと、フアリサイ派の人々から非難されました。彼らは、人の命を救う行いさえ「労働」と見なし、したがって掟に違反していると考えただけで、苦しんでいる人の気持ちのことは無視していたのです。イエス様は、安息日の掟は意味がないといって、破ったわけではなく、「安息日は人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。」とおっしゃって、安息日の本来の意味を教えようとされたのです。彼らは、「心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。」（申命記6・5）、「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。」（レビ記19・18）という掟が律法を守るとききの基準だと知らなかったのでしょうか。

わたしたちも、すべてのことを、神様を愛し、人を愛することと結びつけることができるようにならなければ、教条主義に陥ります。

3・差別と正しい評価

フアリサイ派の人は、割礼を受けていない異邦人は穢れた者（ヨハネ18・28）、律法を守らない人は呪われた者あるいは罪びとと見なしていました（ヨハネ7・49；ガラテヤ2・15参照）。わたしたちは、洗礼を受けていない人、ほかの宗教の人たちをどう見ているでしょうか。イエス様は心の内を見ました（マタイ15・28；ルカ10・33）。

4・神を知っているつもりでも、実際は知らない

わたしたちは、放蕩息子のたとえ（ルカ15・11・32）の長男のように、神様を知っているつもりでいながら、実はよく知らないのではないのでしょうか。わたしたちは放蕩息子でもありませんが、同時に長男でもあります。長男は父親に向かって、「わたしはあなたとずっと一緒にいてあなたに背いたこともありません。一生懸命働いたのに何もしてくれませんでした。なのに、この放蕩息子にはこれだけのことをしてあげるので、どうか」と文句を言います。彼は規則を守るように父親に従っていましたが、父親のほんとうの心は知らなかったのです。父親は、放蕩息子も長男も愛しているのですが、兄は放蕩息子を赦して受け入れるという父の心を知らず、受け入れようとしなかったのです。

（高見 三明）



少女よ、歌いなさい

「子供は死んだのではない。眠っているのだ。」
イエスは子供の手を取って「タリタ、クム」
(少女よ、起きなさい)と言われた。
すると少女はすぐに起き上がって歩き出した。
(マルコ 5・21-43)



新しい要理「共に歩む旅」で分かち合うグループ「エマオの会」をご承知でしょうか。私はこれに参加し、共におられる主を感じようとしながら、様々な方と聖書を通して分かち合っています。この会で、自分の心に大事にしまってきた思いや過去が、主の導きによって分かち合う材料として自然に引き出されていきます。人と語り合えること、声を出して主を共に賛美することは、私にとってとてつもない喜びと恵みなのです。そのエマオの会でお話したことを少しおすそ分けします。

私は幼い頃、死んでいました。体ではなくて心が。元々おとなしい性格ではありませんでしたが、7才で父が急死してからは、喪失、恐怖に襲われ、友達をつくれぬ、人と会話しない暗い子に育ち、すべてが真っ暗。教会学校の数名の友達以外には、近所の登下校を共にする子がいましたが、すぐに転校してしまい、学校ではほとんど一人きり。休み時間は音楽室でオルガンやピアノを弾いていました。家族は病気がちな母と姉で、たくさんの愛情を注いでもらっていましたが、小さい頃の私は孤独を感じる子に育ってしまったのです。心の不調は体にも表れ、すぐに嘔吐してしまう、しかしストレスで肥満体という幼児には苦しい日々を過ごしていました。ある日、転校生の女の子がやってきました。その子はとても明るく活発な人気者でした。ところが、何故か私に引っ付き離れずにずっと話しかけてきました。時間はかかりましたが、段々と私もその子に心を開き、交換日記やリレー小説から始まり、二人で歌を歌うようになったのです。その子がコーラス部に入部し、私をコーラスへ誘ってきました。最初のうちは練習をサボり、幽霊部員でしたが、私の声を気に入ってくくださった先輩に感動し、徐々に練

習に参加するようになりました。部員との間に仲間意識が芽生え、共に声を出して歌うことに喜びを感じました。毎日を友達と仲良く過ごせるようになったのです。小学4年生の時でした。それまでの暗く何かに捕らわれて生きてきた古い人から、明るく開放的な新しい人へと変わりました。変えてくれた転校生の彼女に感謝しています。今となっては所在不明なのですが、彼女は私の救い主イエス・キリストなのです。私が私をみる世界を変えてくださったお方。

私が教会で大声で歌い、目立ってしまうことに陰口や冷たい視線があることは知っています。しかし、今の私はこの喉を震わせ、命を震わせて、生きている声を神に捧げ賛美すること、また宣教の手段として聖歌を歌うこと、誰かがもしかしたら私の声に元気をもらっているかもしれない、そう思いながら歌うことに喜びと希望を感じています。たった今まで20年の人生の中でさえ、何度も様々な人に助けられてきました。何度もイエス・キリストの「タリタ・クム」を聞いたのです。私はもう二度と声を、笑顔を失うことのないよう力強く歌います。私が人々の呼びかけに救われたように、いつか私の声で誰かが救われるように。神さまは人間を通してもお働きになります。共に歩んでくださいます。



私も誰かのイエス・キリスト。
あなたも誰かのイエス・キリスト。
さあ、共に歩む旅に出かけましょう。

中町教会
入口 茜



中地区平和活動

平和学習会

今年65回目の8月9日「長崎被爆の日」を迎え、平和への熱い祈りが捧げられた。今年「平和祈願祭」に先立って、長崎中地区を中心に「平和学習会」を企画した。



1. 子供の部（参加者：小学生・中学生・保護者を合わせ延べ150人）

7月21日（水）に小学生、22日（木）に中学生のための平和学習会を午前10時から午後5時ごろまでカトリックセンター近郊で行った。午前中は3つの紙芝居を準備し、3人の語り部により聞かせを依頼した。一つ目は「平和推進協会継承部会」の前会長長松添博さんによる「ふりそでの少女」である。ご自身の原爆の体験から描いた絵本を通して平和を語って頂いた。二つ目は平和案内人（平和学習のため長崎を訪れる人々にボランティアガイドをしている方々）の上田享さんによる「瞳の中の子どもたち」でした。山里小学校に勤務していた先生の被爆体験で、平成21年に「長崎から伝える平和の紙芝居コンクール」で「長崎平和賞」受賞作品で

ある。三つ目は平和案内人の船井サナミさんと山口正則さんによる「この子を残して」（永井隆作）と「永井隆博士」（平和学習後に作成された小郡小学6年生作）のよみ聞かせでした。特に被爆者による朗読や証言は戦争への怒りと平和を願う強い迫力を感じた。

昼1時からは猛暑の中を汗まみれになりながら約2時間の巡礼がスタートした。平和案内人のガイドで、浦上教会を訪れ、被爆マリア像や被爆石像をみて、浦上の持つ信仰と迫害と被爆の歴史が語られ、永井隆記念館では博士の生涯、信仰や平和メッセージをビデオや遺品からくみ取った。最後に白山墓地に出かけた。多くのお墓の中に野石が点在していた。迫害時代のキリシタンは戒名の彫られた墓碑を作らず、ただ野石を横たえるだけだったが、それを彼らの信仰への誇りにしたのは頭が下がる。白山墓地のお墓には爆心地に近いので8月9日の死亡日が目に付く場所でもあった。

最後にセンターに戻って、振り返りとして感想文、折鶴と平和への祈りの短冊作りに取り掛かった。最後に感謝のミサを行って解散した。（以下にその感想を記す。）



浦上教会

小学5年生 女子

今日の平和学習会で、一番心に残ったことは、紙芝居「ひち」が心に残りました。理由は、原爆にあつて、家族

をなくしてしまった子が、先生のひとみを見て、私がつづいていると言って、死んでしまった事が感動したからです。永井隆博士の「如己堂」に、スゴイなあと思いました。たたみ2畳のお家で、2人の子供を育

てるつてスゴイと思いました。「人間は戦争のために生きていくのではない」という博士の言葉に、私はそうだ。戦争なんかなくなれ。と思いました。私は戦争なんかやめてほしい。と思いました。今日は戦争の苦しみ、よく分かりました。私はこうおもいました。長崎から、平和をたくさん祈ろう」と。



三ツ山教会

中学2年生 男子

今回の平和学習で戦争について学べた事に感謝しています。戦争の悲惨さや今を生きる事の大切さなどを学べました。特にこの学習で心に響いたのが、永井博士の戦争撲滅への考え、永久平和への願いをこめた本の中

にある文章には、感動しました。特に心に響いた文章は「原子爆弾は長崎でお願い長崎がピリオド、平和は長崎から」とこの文章には心うたれました。原爆が落とされたこの長崎だからこそ平和を伝えたいといけなと思う。そのためには、長崎で生きている僕達が世界に平和を発信しなければいけない。小さなことかもしれないけれどその小さなことが一つ一つ積み重なってやがて大きな夢へと変わる。そして世界が平和になる。このことを願っています。「己の如く隣人を愛せよ」。今の地球上にいる人間はこのことがないと思う。自分のことしか考えて行動できない。これでは永井博士の教えがダメになつてしまふ。だからまず自分が変わって人々のために、汗を流せる人になりたいです。



2. 大人の部(参加者…巡礼の部延べ60人、講演の部延べ250名)

7月25日と8月1日の2回行われた。午前10時から午後4時頃までカトリックセンター近郊で行った。

午前中は2時間の平和巡礼コースを企画した。今年被爆マリアは日本でも海外でも平和のシンボルとして大きな反響を呼んだ。浦上かいわいには原爆ゆかりのアリア像が建立されている。まず、



三原1丁目の「小峰のルルド」に聖母像がひっそりとたたずんでいる。ここには、浦上四番崩れの「旅」から帰ってきて浦上に赤痢が流行した時汚染されなかった場所で、原爆時にも多くの人がこの場所に水を求めてやってきた。フラスコ会の岩永修道士の発案により、原爆で苦しむ多くの人の再起となるように「聖母の年」の1954年5月に建立された。

純心高校には「慈悲の聖母」が、被爆によって亡くなった214人の学生・職員を偲んで校墓として建立されている。慈悲の聖母像はファティマの聖母像である。永井隆はこの建立にあたって「燔祭のうた」を捧げている。

最後に訪れた如己堂には、「ルハンの聖母像」(アルゼンチンの保護の聖人)が壁にかかっている。永井博士が、日本とアルゼンチンの親善、長崎の復興と世界平和のために、ルハンの聖母像を欲しがっていると聞いたアルゼンチン大統領

領のエヴァ夫人が、自費で作らせ寄贈したものである。車だとわずか15分もあれば回れる場所だが、汗をかき、仲間と語り、そこに建てられた聖母に対する人々の思いを伺い、手を合わせてそのマリアに平和のために祈り合う巡礼もいいものだ。午後からは、山内清海師の「永井隆と平和」と題して講演が行われた。永井隆の人生から、「科学と信仰」、「原爆と平和」、「神の摂理論」などを博士のことばを通してわかりやすく解説していただいた。その後、参加者に感想と折鶴、短冊作りに協力していただいた。そして、感謝のごミサで締めくくった。

(左記にその感想を記す。)

西町教会

女性信徒

「平和祈願祭にむけて、学び、祈る」どのようなことがあるのだろうか…という気持ちでの参加でした。何年前だったか、海外に住む妹からの「平和のために何か行動して下さい。せつかく長崎に住んでいるのだから。」とのメッセージがあつてから、消極的ながら参加するようにしています。大きなことは出来ないけれど、少しずつ知り、少しずつ行動できたらと思っています。

城山教会

男性信徒

今日の講演で、初めて永井博士が受洗したいきさつを知ることができました。

神の摂理というもののイミが何となくわかったような気になりました。神が摂理



を通して伝えられたことを、その伝えられたものを、私たちがどのように今後世界に広めて行くのか、まるで福音の世界のように…

ジャン・ギトン氏の「火」の話、とても興味深かったです。2つめの原爆が「新しい文化の火」「平和の火」となるという話は、確かに「神の摂理」を感じさせられました。毎年何となくくり返される平和祈願祭と、今まで思っていました。別の意味から原爆というものを、ただの歴史的事実とだけとらえるのではなく原爆を平和のために活かす?方法を考えるべきだと思いました。

3. 今後の課題

今回は、この「平和学習会」は主に長崎中地区だけの呼びかけとなっていました。中地区は教区主催の「平和祈願祭」の準備を担当する地区である。その準備委員会は毎年6月初めに発足し、3回の会議ですべて終了する。準備期間が短すぎるし、長年同じ企画をこなすので精一杯の感がある。昨年と今年、祈願祭の典礼責任者の任を受けて、準備の大変さに翻弄されながらも、祈願祭に参加者の心の準備となる企画はほとんどされていないことを残念に思う。昨年の反省会で提案したがうまく生かされなかった。今年、巡礼センターや船井さんと相談して、この企画を練り、挑戦してみた。しかし、7月上旬に企画を提出するのは遅すぎる。残念ながら、市内全域にお知らせすることも困難である。今回は中地区司祭団や評議会の協力で子供たちや大人の参加を得た次第である。幸いにも今年、福音化推進部「正義と平和推進部会」が平和旬間中に企画されていた団体のさまざまな行事をパンフレットにまとめていただいで、いろんな取り組みが見えてきた。中地区だけの問題としてではなく、広い視野で教区の取り組みとして、この祈願祭に向けての心の準備をする場が検討される必要を感じる。(中浜 敬司)

生活教会 の中の



馬込教会

フォトプラン 山本 富夫

馬込

長崎港の沖合い、沖の島の字向
イに建つ教会堂。ゴシックの麗姿
は堅固な信を放つ。

幕末、この地の信徒たちが大
浦に出向いたと言ふ。

一八七一年、二十戸ほどで、
八坪ほどの聖堂を椎山に建立。

一八八〇年、伊王島の大明寺
に聖パウロ教会堂を献堂、小教区
となった。

一八九〇年、マルマン師は漆
喰建ゴシックの教会堂を字向イ
に献堂。

一九三二年、聖堂は台風で崩
壊。それを機にコンクリートの現
教会堂を献堂。

八〇歳にならんとする教会堂
は今、懸命に陸と海の人々を見守
っている。